

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館 ニュース



発行 (財) 第五福竜丸平和協会
連絡所 〒136-0081 東京都江東区 夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内 電話 03-3521-8494

「グワーン」と、頭上で百雷が轟きわたったような気がして、目の前に都市の崩壊した姿が浮かび上がってきました。一瞬にして崩壊した家屋の下敷きになって生きながらに焼き殺された母を、「今度こそ助けるぞ」と立ち上がって歩みかけた途端、目がさめました。つい数日前のことです。広島街に原爆が投下されたあの日のことが、いまもなお脅迫感となって迫ってくるのです。

原爆は、爆風、熱線、放射線によって人類史上未曾有の想像を絶する被害を、人間にもたらしました。被爆者は、原爆被爆によってこの五七年間、からだ、くらし、こころの全面にわたって苦悩をかかえ、病苦や死の不安とたたかひながら生きてきました。

これに対して国厚生労働省は、原爆被害の実態や被爆者の長年にわたる苦悩などについては突っ込んだ説明をしようにとせず、被害を常に過小評価してきました。被爆者がガンなどについて原爆症として認めてほしいと求める認定申請に對しても、国は、被爆者の勝訴が確定した松谷裁判の最高裁判決や京都裁判の判決を活かそうとはせず、認定の枠を拡大

原爆被爆者の「集団訴訟」運動

岩 佐 幹 三

しようとは考えません。逆に裁判で機械的な適用が批判されたDS八六という基準を衣替えさせただけの科学的にも問題のある「原因確率」といわれる基準を使って、認定は至近距離被爆者に限定し、入市被爆者や救護被爆者には切り捨てをよりきびしくすすめています。

こうした国の施策の壁を打ち破り、その転換をめざして、日本被爆協は、原爆症認定「集団申請・集団訴訟」の運動を展開することに踏み切りました。この運動は、国のきびしい切り捨てを予測してこれまで自己規制していた二キロ以上の遠距離被爆者や入市被爆者の人々も含めて、自分たちの健康障害・疾病は被爆によって生じたものであるということとを国に認めさせ、現行の認定制度を原爆被害の実態に合ったものに改善させようとして立ち上がった運動です。七月九日に全国いっせいに取り組まれた原爆症認定集団申請は、主要なマスコミが、大々的に取り上げてくれたことによって、国の被爆者対策には大きな欠陥があることを国民にひろく知らせる機会となり、大きな反響をよびました。

集団申請、特に集団訴訟は、これまで

とまどっていた被爆者にとって、一人だけでは不安だった訴訟を多くの人々と力を合わせて提起できるので、精神的にも財務的にも負担を軽減させるメリットがあります。それ以上に、現行の認定制度はどが原爆被害の実態に対応したものになっていないのか、被爆状況によって認定の対象にならないのはなぜなのか、など多くの事例によって広く明らかにされ、国の認定のあり方が問われることとなります。

この運動は、このように具体的には原爆症認定制度の抜本的な改善をめざす運動ですが、運動を通して原爆被害の実態を明らかにしていく中で、国家補償を拒否し原爆被害の受忍を強いている国の政策、ひいては核兵器廃絶に消極的な国の政策の転換に道を開くことにつながる運動でもあるのです。

こうした運動は、認定申請者、訴訟対象者だけのものにはなりません。被爆者全体の問題にし、さらには平和を愛し、核兵器廃絶を求める国民みんなのものにひろげていかなければなりません。この運動に賛同していただける皆さんの大きな支援の輪がひろがっていくことを期待しています。

(いわさみきそう／日本原水爆被害者団体協議会事務局次長／第五福竜丸平和協会評議員)

第五福竜丸展示館 開館記念日に懇談会

第五福竜丸平和協会は、展示館の開館二六周年にあたる六月十日、日本青年館にて記念の懇談会を開催しました。

会には、日頃から平和協会の活動に協力をいただいている各界の方々、協会評議員、理事など二〇名が参加、山村茂雄理事の司会ですすめられました。

最初に川崎昭一郎会長が挨拶し、日頃の協力への感謝と、平和協会の活動とりわけ被災五〇周年にむけて、展示館の管理運営とともに広く社会的に貢献すること、船の保存や記録・資料の収集などをはじめ、どのような記念事業を展開するか、お知恵を拝借したいとのべました。

参加者からは、世界的な核兵器廃絶のうごきの歴史的な位置付け、特別展の開催やビキニ事件の社会的歴史的な再検証、若い世代のための展示館の活用と施設の拡充などについて意見がだされました。

第五福竜丸平和協会 理事会、評議会開く

二〇〇二年度最初の平和協合理事会と評議員会が五月十八日、神田の学士会館で開かれ、今年度の事業計画や予算を確認し、寄付行動の設定について審議しました。また、理事会で選出された評議員四名が新たに就任しました。

今年度の事業計画から

二〇〇二年度(四月一日より二〇〇三年の三月三十一日)は、東京都からの受託事業として展示館を三〇七日開館し、管理運営にあたります。

昨年、ボランティアが発足し協力を得ていますが、今年度は団体の見学者への説明・ガイドとともに、土・日・祭日などの一般来館者への案内にもとりくみます。

展示替えについては、視聴覚ルーム(ビジュアルコーナー)を開設すること、ラッセル・アイシニユタイン宣言のパネルを新たに作製します。

協会所蔵の資料・文献などのリスト化、目録作成をすすめます。

アメリカ国立公文書のビキニ関

係図面や焼津に所存する資料など収集に努めます。

広報・宣伝の一環としてホームページの作成・公開を七月末をめざしてすすめます。

被災五〇周年の記念事業の構想検討をすすめ、賛助会員の増員をはかります。

新たな評議員の紹介

岩佐幹三さん(日本原水爆被害者団体協議会事務局次長、関口和さん(原水爆禁止日本国民会議顧問)、坂野直子さん(日本青年団協議会前総務部長)、田中里子さん(東京都地域婦人団体連盟参与常任)

最近の展示館から

四月〜六月までは修学旅行など小学三三、中学一五四、高校一三三の訪問があり連日賑やかでした。貸出パネルは、西宮市の原爆展、埼玉の戦争展、焼津での平和展で展示されます。

八月の「体験学習会」は、朝日小学生新聞にとりあげられたこともあり六〇人をこえる子どもたちからの応募がありました。

(2めんからつづく)のスピーチを褒めて下さいました。最後に

今回のマージナル訪問に際して三つの願いがありました。その一番目は、山本機関長の奥さんから頂いた「山本さんが彫った仏像の顔の形見のひもネクタイ」を締め、山本さんにも一緒に旅をしてみようことでした。二つ目は同じ水爆実験で被爆した島民の本当の心の中を知りたかったこと。三つ目は子ども達と風揚げをしたい、ということでした。

その願いはかなえられたと思います。私の中のビキニ事件についても幅がひろがったように思います。みなさん、本当にありがとうございます。ありがとうございました。

四月号から四回にわたる大石さんの報告はこれで終了します。なお、八月の第二週にテレビ朝日系列で「ドキュメンタリー大石さんのマージナル訪問」が放映されます。



被ばく者として
マーシャルを
訪ねて(最終回)
大石又七

精神的な苦しみへの補償

島民が島を離れることの苦しみ、離れて以降の苦難に対する補償があります。

ビキニの人々は美しいラグーンがあり魚も自然も豊かな島から小さなキリ島に移らざるをえません。エニウエトクの人々が移住したウジュランもマジユロから六〇〇マイルも離れ、土壌が貧し



子ども達と風揚げ

くパイヤヤやパンダナス、ココナツも良く育たず、食料を船で運びます。

ロンゲラップへの土地の補償も公聴会などを開き、補償額を決める作業がすすまれています。ウトリックも同様の請求をおこし、弁護士を雇い、公聴会のための資料作成をすすめています。さらにアイルックやリケープ、ウオッチェなどの被ばくの調査がすすめられており、この結果ができれば彼らもNCT(核被害補償法廷)にたいして請求をおこすことになるでしょう。こうした補償は、それぞれ四〇五億ドルにもなります。

ビキニ核実験は人体実験

NCTとしては、いくつもの核実験に際して人体実験があったと思っっています。とくにブラボーは。ジョンサン・ワイスガルというアメリカの弁護士でビキニの補償を求める弁護士をした人が、ブラボー実験では六時間前から風向きが悪いことが判っていた。ロンゲラップなどの方向に吹いていた。しかし実験は行なわれた。島民の避難も遅らされた。さらに、一九五七年にロンゲラップは安全

だとして島民を帰島させたが、その時特に島のクリーンナップなどしなかった。これにより島民はさらに被ばくすることになったと、公開資料から分析しています。

五四年三月九日にクワジュリン島民を治療したフロン・カイト医師は、ベニシリンや抗生物質などの投与を提案したところ、エネルギー省はストップをかけた。彼等は治療よりも被ばくによるデータを求めたわけです。アメリカの考え方は被害島民は人間というよりもモルモットであったといえるのかもしれない。また、ブラボー実験後、危険区域が扇型に八倍に拡大されましたが、いびつな形でロンゲラップははずされていません。人体実験なのか、いつ決められたのか不明な点もまだ多いのです。

マーシャルでの出会い

今回のマーシャル訪問では現地でも印象的な日本人との出会いがありました。日本統治時代の中心地だったジャルト環境で働いていました。一人は宮城県出身の多田智恵子さん。海外青年協力隊としてジャルトからキリ島の

小学校に来て英語教師をしていました。千人ほどのキリ島にただ一人の日本人、しかも色白のうら若い女性でした。

私は今回の訪問で、"マーシャルにミサイル基地は似合わない"島の子ども達と白い砂浜で椰子の木をバックに風揚げをしよう。そう思い竹ひごや扇糸を持ってきてきました。子どもたちはすぐに集まってきて、多田さんも手伝ってくれながらたくさん話を聞かせてくれました。かつて日本軍の基地であり激戦で多くの兵士がなくなったこと、島の周りにはいまも遺骨がたくさん残されていることなど。私は靖国で大騒ぎする前に遺骨収集などすべきことがあると思えてなりませんでした。

もう一人というより一組は、漁業基地建設できておられた米丸ご夫妻でした。ビキニ集会にでる前日の夕暮れ、釣り竿を持ち出し糸をたれていて出会いました。

なんとその方の娘さんから「学校で福竜丸に乗っていた人が事件のお話をしている、と聞いたことがある。あなたその方?」。翌日の核被害者デーにも見えられ、私(4めん下につづく)

ロンゲラップ平和ミュージアム設立への
支援を呼びかける国際アピール

マーシャル・ロンゲラップの被害者たちは、被爆五〇周年に、被害の実態を展示する「平和ミュージアム」の設想を構想し以下のアピールを発表しました。

一九五四年三月一日、ビキニ環礁で行なわれたブラボー水爆実験の日からまもなく半世紀を迎えます。私たちの夢であった、最大の被災地ロンゲラップ環礁、ロンゲラップ島の汚染除去作業がいま急ピッチで進んでいます。

私が最後にロンゲラップを訪れた一九七五年から二五年、再びロンゲラップを訪れました。故郷に降りた時、とてもうれしく胸おどらせていました。しかし、突然、さまざまな感情がこみ上げてきました。

悲しいことに、長く美しい浜辺や青い環礁を楽しんでいる人はだれもいません。子どもたちが遊び、動物を追いかけている姿もありません。二五年前にあった家々には誰も住んでおらず、荒れ果てています。残されている墓地を見ると、何も知らず犠牲となっ

た島民の痛みや苦しみがよみがえります。恐ろしい格兵器の被害を受け、たくさん命が失われたことはなんと悲しいことでしょうか。

しかし、わずかな希望とともに、一つの夢が浮かんできました。ミュージアムを作るといふ夢です。被ばく者は忘れられてはなりません。私たちは、彼らの痛みや苦しみを学ばなければなりません。ミュージアムは被ばく者の経験や被ばくの出来事のみを展示するものではありません。

ロンゲラップと日本の被ばく者との交流を促進し、共通の目標である平和をめざすセンターの役割も果たします。世界中から核兵器をなくすために私たちはひきつづき団結しなければなりません。そうしてはじめて、子供たちや将来の世代に安全で平和な明日を残す

ことができるのです。夢は何もしなければたんなる夢で終わります。みなさまのご支援、ご支持をとても必要としています。子の夢を実現するために、皆さんのご支援をよろしく願います。ロンゲラップ平和ミュージアムは、ビキニ被災五〇周年の記念日にあたる二〇〇四年三月一日に落成し、開館することをめざしています。

このミュージアムが、ロンゲラップの被災者に未来への希望と困難を乗り越える勇気を与えるものとなるよう、また、ロンゲラップの被災者その他の環礁の被災者、日本をはじめ世界の被害者との連帯の碑となるよう、お力をお貸しください。

二〇〇二年三月一日

ロンゲラップ平和ミュージアム設立委員 会長 リン・カプア・ミルネ

顧問 ジョン・アンジャイン／ネ
ルソン・アンジャイン／アバ
カ・アンジャイン・マディソン
(マーシャル共和国上院議員)／
モレ・カプア、ベティ・エレモ
ンド(ロンゲラップ女性クラブ、
被ばく者)／ジェームス・マタヨ

連絡先: Mirar in Eaan Committee(People from the North)
P.O.Box 350, Majuro, Marshall Islands 96960
(Tel)692-625-4306 (Fax)692-625-3879
(Email)Miranneaan@yahoo.com
振込み口座: Bank of Marshall Islands
PO, Box J Majuro, MH 96960
Tel)692-625-3662/3636/or3661
Savings acct #881-72-2006-7
Routing #121405212
ホームページ: http://www9.plala.or.jp/gojoi/index.html

*このアピールに呼応して平和ミュージアム設立を支援する会(日本原水協など)が取り組みをよびかけています。問合せ先電話〇三二五八四二一六〇三四・担当 土田弥生さんまで。